



令和2年9月

スクールカウンセラー 中野隆治



「まるごと好きになる」



8月号に載せた「あいたくて」の詩の作者に、こんな文章があります。

……会ったとき、まず、相手のひとの好きな部分のほうを、先に探し出すのである。好きなところを見つけ、「うん。」と、そのひとをまるごと好きになる。きれいなところを見つけるのはあとでよい。きれいなところがあっても別にかまわないじゃないか。とにかく、まるごと好きというのは、「きれい」をひっくるめて好きなことである。そのうえで、そのひとの好きな部分だけ、パチパチ拍手する。

（^{くどうなおこ}工藤直子「まるごと好きになる」）

詩人として、感受性にあふれた作品を生み出している作者は、こんな風に、人を好きになる^{ひけつ}秘訣を披露しています。どんな人にもあるかもしれない嫌いな部分は後回しにして、まず、相手をまるごと好きになることだと言っています。そうすれば、その人と素晴らしい人間関係が作れる、もしかすると親友になるかもしれないということでしょうか。

みなさんも、現在、新しいクラスになって、友達づくりや、友達との関係づくりに悩んでいる時期かもしれません。そんな時、この一言……「まるごと好きになる」という文句を思い出してください。悩みは解決するかもしれません。

人間には個性というものがあって、それが、その人の根幹にあることは間違いないと思います。ある日本の心理学者は、「対人関係の食い違いやずれは、それがその人独特の感受性や個性であると認識することで、その人を認めていくことができる」と言っています。人間関係の様々な悩みを持つ人は多くいると思いますが、その原因の一つが個性の違いであるのなら、その違いを認めた上で、相手を受け入れてはどうでしょうか。個性や価値観や感受性の違いを認めた上で、相手をまるごと好きになっ^てしまえば、もうしめたものです。相手との間の強固な友情が確立されて行くことになると思います。

ただ、友情にしても恋愛にしても、いつも当初のような新鮮さが持続するとは限りません。ほんの些細なことで、相手と自分の違いが大きくクローズアップされ、自分の手に余る時が来るとも限りません。そんな時に、ふと思い出したように、「まるごと好きになる」という一言を、まるで呪文のように唱えてみるのです。相手をまるごと好きになっ^てしまえば、二人の間に介在する細かい「嫌い」な部分は、いつの間にか消失しているはずで^す。人間の良好な関係づくりの秘訣は、「まるごと好きになる」とだと、信じてみてはどうでしょうか。

何やら遠ざかりそうだった、対岸にいる二人の間に、新しい架け橋が建てられて行くではないでしょうか。